

東亞同文書院支那研究部事業報告

東亞同文書院支那研究部

支那研究部規則

第一條 本部ハ支那ニ關スル各般ノ問題ヲ研究シ其ノ結果ヲ發表スルヲ目的トス

第二條 本部ハ前條ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ事項ヲ行ウ

研究資料ノ蒐集

部員ノ研究旅行計劃

學生ノ修學調査旅行計劃

部員及ビ學生研究ノ印刷發行

講演會ノ開催

第三條 本部ハ職員全部ヲ以テ部員トス

第四條 研究部二次ノ委員ヲ置ク

委員長 一名

委員 若干名

委員長及ビ委員ハ院長ヨリ之ヲ委嘱ス

委員ノ任期ハ一ヶ年トス

第五條 委員長主任及ビ委員ハ院長及ビ教頭ノ命ヲ受ケ本部ニ屬スル一切ノ事務ヲ處理ス

委員長主任ハ委員カ處理スル事務ノ統一ニ當ル

第六條 委員ノ事務分担ハ委員會ニテ之ヲ定ム

第七條 部員ノ研究旅行及ビ學生ノ修學旅行ニ關シテハ別ニ定ムル所ノ規定ニ依ル

本部ノ重要事業ハ第二條ノ各項を實行するにありて今日まで擧げ得たる概要を記せば左の如し。

(後略)

〔注〕 「滬友」第二二号（大正十二年）所載。

支那研究部

(一) 創設の要旨

列國が渾然として齊しく支那の根本的解剖に従事しつゝある時、古來隣國として殊に深甚なる關係にある我日本にとりて支那研究が學術的、經濟的將又政治的にも極めて緊要なるは言を俟たざる處なり。

而るに近代學術が凡ての對象に向つて然るが如く、支那研究に於ても放漫なる常識的議論を以て甘んずることの甚だ危険なるは自明の理にして、今や飽くまでも専門的、科學的探求により、凡そ精確に事實の真相を極むるの要あるべしと信ず。

本院は支那の要樞上海に有り、地の利を得て正に支那研究遂行の使命を負へるものと言はざる可からず。於茲大正七年秋本研究部は創設せられ一面學叢として本院教育の内容を實際に有効ならしめ、他面東亞文化の淵藪としてその使命を全ふせん事を期す。

(二) 本部の目的

支那に關する各般の問題を研究し其結果を發表す。

(三) 本部の組織

教授、助教授、講師を以て部員となす。(現在部員數二十九名) 右内委員五名 内一名委員長

(四) 本部の設備 (研究室)

本館

研究室、 六室、各一人専用

閲覽室、 内外新聞雜誌辭書類、索引類、インデキスカード、ポスター、傳單、

寫眞其他を備付く

事務室、 事務員一人、助手一人、雜役一人

別館

英語研究室、 研究室二室、各一人乃至二人にて使用 閲覽室、専門の必要資料を

備付く

華語研究室、 研究室三室、各一人乃至二人にて使用 閲覽室、専門の必要資料を

備付く 雜役一人

簿記研究室、 研究室一室

(後略)

〔注〕 「創立三十周年紀念東亜同文書院誌」(昭和五年三月) 所載。

支那研究部の事業

當部は日滿支の關係愈々緊密の度を加へ其の使命の一層重大なるに鑑み益々その發展を期する爲め本年四月部内の組織を改革し新に陣容を整へ諸般事業の刷新を計ると共に豫ねて多年の懸案たりし二千餘冊の旅行報告書及び數千枚に達する寫眞の整理を初めとして従来華語研究會の事業たりし華語月刊の發行を當部に繼承し更らに左記各種の編纂を企圖し夫々擔任者を定め其の實現を計りつゝあり。

- 一、支那語教科書
 - 一、經濟新聞の讀方
- 一、滿洲國全誌
 - 一、銀問題論叢
- 一、支那語辭典
 - 一、支那語、支那時文、試験問題解説
- 一、四聲辭典
 - 一、支那時文尺牘講義
- 一、支那西北全誌（青海、新疆、西康、西藏）

（後略）

〔注〕東亜同文会事業報告書昭和八年上半期（自昭和八年四月至昭和八年九月）所載。初めて辞典編纂の文字がみえる。

支那研究部の概要

當支那研究部は支那及び支那に關係ある研究をすることをその目的とし本院全教授を以て部員としてゐる。當部は大正九年成立以來既に二十年の歴史を持つてゐる。

當部は院長に直屬し一切の活動は部長を首班とする委員會の計劃の下に行はれる。

(中略)

五、華語研究室

華語研究室は本院華語担任の部員及支那人講師とによつて組織されてゐるのであるが、當部發行の「華語月刊」は該研究室の責任編輯によるものである。その他本院使用の支那語教科書、參考書等は概ね該研究室の編著に係る。尚該研究室で數年來編纂中の支那語大辭典は略、完成に近づいてゐるのであるが、事變以來担当者等多忙な爲進度が遅くなつて來てゐるやうであるが遠からず完成を見ることであらう。

六、統計研究室

此れは昨年成立したものである。支那に關する統計の研究整理を行ひその成果を發表する豫定であるが豫算の關係上發表が困難な状態に在る。

七、出版物

(甲) 定期出版物

支那研究 (季刊)

本院教授の支那に關する研究成果を發表する機關雜誌で本年二月を以て第五三號を發行した。

華語月刊

日本に於ける最初の支那語研究雜誌で本院日支人支那語教授講師の執筆する高級支那雜誌である。

(後略)

〔注〕 「滬友學報」二號 (昭和十五年五月) 所載。

支那研究部

支那研究部に於いては従来通り支那研究、華語月刊等を發行の外昭和十四年四月より「現代支那講座」六卷を發行して支那智識の普及に資したり。

(後略)

〔注〕 「創立四十周年東亜同文書院記念誌」(昭和十五年六月)所載。

東亞研究部

(前略)

二 華語月刊 第百十九號 (昭和十八年十一月發行) を最後として休刊。

〔注〕東亜同文会事業報告書昭和十八年度下半期(自昭和十八年十月至昭和十九年三月)所載。